

## 在宅療養「在宅コーナー」

### 当院の訪問診療、ひえい在宅療養応援団の活動報告、 大津市中部における在宅医療連携の取り組みについて

公益社団法人大津市医師会 在宅療養推進部  
医療法人良善会 ひかり病院(3組) 院長・理事長  
柳 橋 健

今回は「当院での訪問診療の実際」、「ひえい在宅療養応援団(比叡ブロック多職種連携事業)の最近の活動報告」、「大津市・中の方・在宅安心ネットワーク(大津市中部における在宅医療連携の取り組み)」について述べさせていただきます。

#### (1) 当院での訪問診療の実際

訪問診療を行っている患者(在宅療養者)は自力では通院困難な方であり、プライマリーケアとして在宅でできることはできるだけ在宅で行えるようにスキルアップ、機器の導入、また様々な工夫などおこなってきました。今回はそのいくつかを紹介させていただきます。

★「上肢・下肢痙縮」「眼瞼・顔面けいれん」に対するボツリヌストキシン注射

現在、脳出血後の「上肢・下肢痙縮」1名、「眼瞼・顔面けいれん」1名に対し継続中です。

★認知症ケア「ユマニチュード」

2016年に入門コースの2日間の講習を当院の病棟看護師(現在は当医療法人訪問看護ステーション訪問看護師)とともに受けました。その後も何人もの当院スタッフに入門コースを受講してもらっています。〈3つのケアのレベル〉は慢性期医療の基本として常に考えており、〈見る〉〈触れる〉〈話す〉の技術、〈出会いの準備〉など意識しての対応を心がけています。

★ポケットエコーの活用

当院ではポケットエコーとして「mirucoコンベックスタイプ」と「Vscan Extend」(セクタリニアの2つの探触子+カラードップラー機能あり)を有

しておりPoint of Care US (POCUS) として使用しています。具体的には、

- 胸水腹水の診断や穿刺排液
- 排尿管理(水腎症の診断や膀胱容量の測定)
- 急性腹症やイレウスの診断
- 呼吸器疾患の診断(気胸、肺炎など)
- 外傷・骨折の診断(肋骨骨折の診断はXPよりも感度が高いと思われます)
- 体表の病変・腫瘍の診断
- 経鼻胃管の交換・挿入時の位置確認:頸部のエコーで頸部食道内にチューブが挿入されている(気道内誤挿入でない)ことがかなりの確率で確認可能
- 上肢・下肢痙縮に対するボツリヌストキシン注射時の注射部位の確認

等を行ってきました。今後も心エコーや血管エコーも含め、POCUSとしてもっと多くの活用ができると思われ、よりスキルアップをしていきたいと思っています。

★胃瘻内視鏡の活用

「ベンタックス ポータブルマルチスコープ」を購入し、在宅での持ち運びのための専用ボックスを自作しました。在宅での胃瘻ボタンの交換、嚥下内視鏡検査(VE)に使用しています。嚥下内視鏡検査は当院入院患者に対しては少しずつ行ってきましたが、在宅ではまだあまりできておらず、今後多職種との連携の中で療養者の「食べる」を支えるケアをすすめていければと思っています。

★がんの疼痛緩和治療

院外薬局と連携し、CADD<sup>®</sup>-Legacyまたはディスポのバルーンインフューザーを使ってオピオイドの

持続注入(PCA)を行っています。現在CADD<sup>®</sup>-Solis PIBの購入を準備しています。また緊急でオピオイド使用を開始したい時などは当院の薬局長にお願いし、院内処方に対応したりしています。

★褥瘡の予防と治療

2018年に大津市医師会のサタディセミナーで「褥瘡の治療と予防～療養病床でここまでできる－褥瘡対策チームの取り組みと在宅での見方～」というタイトルで講演をさせていただきました。在宅における褥瘡管理については「予防」「早期発見・早期治療」が特に重要で、そのためには多職種での連携が重要になります。在宅版K式スケールなどによるリスク評価に基づいた各職種への注意喚起、マットレスの選定や素早い導入などが必要です。治療については状況に応じ開放性湿潤療法OpWT（ラップ療法）、陰圧閉鎖療法NPWT（PICO<sup>®</sup>など使用）も行っています。訪問診療に同行してもらっている外来看護師が今年「在宅褥瘡予防・管理師」の資格を取得しました。

★フットケア

在宅では寝たきりの方も多く、爪白癬による爪の肥厚・異常な変形が非常に多い印象です。ニッパーによる爪切りとその後のエフィナコナゾール外用液の使用で非常に良くなる印象です。ニッパーによる爪切りを行うと切った爪の破片があらぬ方向へ飛んでいくので、透明のビニール袋を足にかぶせ、袋の両角を切ってここから手を挿入して爪切りをしました。最近ライト付き低倍率拡大鏡と透明ビニール袋を両面テープで接着したものを自作し使い始めています。

また下肢の血流評価のためにドップラー血流計を購入し、簡易ABI測定など行っています。

★皮膚科疾患のプライマリーケア・体表の小外科

白癬症の診断ではプレパラートに検体を取り、病院に持ち帰って検査室でKOH顕微鏡検査を行っています。

最近マダニの咬着がありました。一番安全な方法として局麻下に皮膚ごと切り取り、皮膚縫合しました。後で調べても取り除く方法としていろいろな方法があるようです。

感染性粉瘤や皮下膿瘍などに対する局麻下での切開や切除、褥瘡のデブリードマンなども行っています。このような処置の時のためにヘッドライトを往

診カバンに入れてあります。

★難聴の方への対応

難聴の方とのスムーズな会話でのコミュニケーションのために「comuoon」、「聴六」を購入して時々使用しています。

(2) ひえい在宅療養応援団（比叡ブロック多職種連携事業）の最近の活動について

昨年度まで3年間、ひえい在宅療養応援団のサブリーダーとして活動させていただきました。私はむしろおんぶに抱っこ状態で申し訳なかったですが、ケアマネジャー、地域包括支援センター（比叡あんしん長寿相談所）の方などを中心にしっかりと活動していただき、昨年度の勉強会を、「大津市の災害への取り組みについて知ろう」と題したZoomを利用したオンライン研修という形で行いました。大津市役所危機防災課の方に講義をしていただいた後、様々な職種の方からなる小グループに分かれてワークショップを行いました。今年度も「大津市の災害への取り組みについて知ろう2」として11月17日(木)18:30-20:00にZoomでの勉強会を予定しており、この1年間の新しい話題も含めた大津市役所危機防災課の方の講義と、今回は同一職種からなる小グループでのワークショップを予定しております。ぜひ先生方にも積極的なご参加をいただければと思います。

また市民啓発活動としてFMおおつラジオ出演（8月土曜日4回各10分間）を行いました。これはひかり病院の関連職員の方がFMおおつのディレクターもされていることから、当院で私とともに訪問診療を担ってくれている牧Dr.が中心となって企画したものです。牧Dr.の他、ケアマネジャー、地域包括、デイセンター、福祉用具の方が出演しました。今後第2弾もあると思っています。

今年度からサブリーダーの役を琵琶湖病院の松田桜子先生にバトンタッチさせていただいています。

(3) 大津市・中の方・在宅安心ネットワーク（大津市中部における在宅医療連携の取り組み）について

大津市保健所より「大津市中部ブロックにおける訪問診療バックアップ体制」を当院で構築してほしいとの要望を以前からいただいております。どのような

形で当院が貢献できるかをずっと考えてきました。具体的には開業医の先生の24時間365日対応の負担軽減や、必要時の入院調整（subacute症例の緊急受け入れなど）が期待されていると考えられます。

当院では2年ほど前から2か所の診療所と機能強化型在宅療養支援病院・診療所として連携、月1回のカンファレンスをZoomで行っています。また情報共有にはびわ湖あさがおネットのメール機能を用いており、「大津市中部における機能強化型在宅医療連携」の名称でメンバーリストを作成してデータなどのやり取りを行っています。今回これを核にして大津市中部での在宅医療連携を開業医の先生とさらに進めていけたらと考え、連携の枠組みを作ってみました。これについては大津市医師会在宅療養推進部長の上川龍彦先生にも目を通していただきご了解いただいております、今後先生方に紹介させていただき、連携に加わっていただけますことを期待しています。以下に連携の骨子につき述べさせていただきます。

まず連携の名称として「大津市・中の方・在宅安心ネットワーク」としました。

#### ★連携に加わっていただきたい診療所

- ① 現在在宅療養支援診療所の届け出をされて訪問診療をされている診療所
  - ② 現在在宅療養支援診療所の届け出はされていないが、訪問診療をされている診療所
- エリア 大津市中部（主に中ブロックと比叡ブロックで開業しておられる診療所）

#### ★連携の方法

「大津市・中の方・在宅安心ネットワーク」のメンバーに加わっていただき、びわ湖あさがおネットの「大津市・中の方・在宅安心ネットワーク」のメンバーリストにお名前を加えさせていただきます。ご相談やご要望があれば、

- ① メンバーリストのメンバーにメールで内容を流して頂く
- ② ひかり病院訪問診療課に電話などで情報を頂き、ひかり病院よりメンバーリストで情報をメンバーに発信する、等により対応させていただきます。

先ほど述べましたように、「大津市中部における機能強化型在宅医療連携」で月1回30分程度のカン

ファレンスをZoomで行っており、毎月の訪問診療の報告や情報交換（最近ですと新型コロナ感染症に関することなど）を行っています。この連携カンファレンスの案内を毎月メールで送らせていただきますので、カンファレンスにご参加いただき（毎回参加していただく義務はありません）、ご相談やご要望をこの場で検討させていただくことも可能です。また開業医の先生方の情報共有の場にもなるかと思えます。

#### ★連携に加わっていただくことのメリット

A) 24時間365日対応の医師負担の軽減 - 24時間対応での緩やかな支援

（主に現在在宅療養支援診療所の届け出をされて訪問診療をされている診療所対象です）

出張、旅行、病気、その他の理由で主治医が対応できない場合、下記の方式で連携に加わっていただいているメンバーの中から対応できる医師（副医師）を決定し、主治医（かかりつけ医）から依頼のあった患者さまに対し依頼の期間、副医師が訪問診療や往診などの対応を行います。具体的には、

- ① びわ湖あさがおネットのメンバーリストを使って、主治医の往診不可の期間、主治医による電話対応は可能か、対応が必要な患者リスト（年齢、主病名、簡単な病歴、大まかな住所）等の情報をメンバーリストからメールで流して頂く、または、
- ② ひかり病院訪問診療課に電話などで情報を頂き、ひかり病院よりメールで情報を発信する、等の方法で、びわ湖あさがおネットメールなどで連絡を取り合うことにより、副医師の決定を行います。

#### \*副医師における待機料や保険請求について

互いに持ちつ持たれつの関係であり、待機料は設定しない。

副医師による往診を実施した場合の保険請求について、

- ① 副医師の医療機関にて保険請求、自己負担分の患者への請求を行う
- ② 主治医の医療機関と副医師が一時的なパート医の契約関係を結び、主治医の医療機関から保険請求を行う

等の方法が考えられますが、あらかじめ両者で話し合い、方法を決定しておいていただくこととします。

\*副医師による往診時にトラブルが発生した場合は、副医師と主治医が協働してトラブルの対処をおこなう方針とします。

B) 後方ベッドの確保 緊急入院の受け入れをひかり病院で対応します。

訪問診療をされている患者様が急に状態が悪化し、入院が必要となった場合など、ひかり病院訪問診療課 (or 地域連携室) に電話等で連絡を頂ければ、緊急入院の受け入れを検討させていただきます。

但し午後からの受け入れ、夜間休日の入院受け入れはできませんので、下記のような方法もとらせていただく場合があります。

急性期病院 (大津赤十字病院、市立大津市民病院等) にひかり病院から連絡し、ひかり病院に近日に転院していただけることを伝えたくて短期間の入院をお願いします。

C) 訪問診療をされている患者様のレスパイト入院の受け入れをひかり病院で行います。

D) 診療報酬上のメリット

現在在宅療養支援診療所の届け出をされて訪問診療をされている診療所で、看取りの実績年間2件以上、緊急の往診の実績年間4件以上あれば、機能強化型での連携に加わっていただくことが出来、在宅時医学総合管理料として機能強化型在支診・在支病 (病床あり) の点数が請求できるほか、さまざまな加算が得られるなど診療報酬上のメリットがあります。

現在在宅療養支援診療所の届け出はされていないが、訪問診療をされている診療所では、連携に加わっていただくことにより在宅療養移行加算2が算定できるようになります。

以上のようなバックアップの体制を作ってみました。これから先生方を訪問し紹介させていただこうと思っております。ご賛同いただける先生にはぜひ連携に加わっていただければと思っております。